

親子の笑顔最後まで

母親を支えたからこそ、子どもたちの笑顔がある。東日本大震災後、大船渡市のNPO法人こそだてシッブ（伊藤怜子理事長）が陸前高田市米崎町で毎月開いてきたママサロンが4日、65回目の活動を最後に閉会した。最終回には市内外の親子32組79人が集まり、感謝の笑顔に包まれた。

「久しぶりだねー」「この写真懐かしい」。同日は米崎地区コミュニティセンターで、写真や子どもの足形を使ったカード作りを通して会話を楽しんだ。活動を通じて親同士の交流が深まり、子どもたちも元気に体を動かして遊んだ。

震災直後、被災地には親子が外に出にくい雰囲気があった。同市高田町の千田育子さん（44）は2011年5月に長女佳澄ちゃん（5）を出産。家が流され、慣れ

陸前高田・米崎のママサロン 安らぎ提供の場 閉会

ない仮設暮らしは周囲への気配りに懸念だった。

安らげる場所がママサロンだった。育児相談やハンドマッサージ、何より話を聞いてもらえる雰囲気がか



子どもの足形をとってもらう親子。最後まで笑顔が絶えなかった4日、陸前高田市米崎町

地よかった。「同じお母さんたちがいて友達になれた。おむつやミルクなど支援物資も配ってもらい、すごく助かった」と感謝する。佳澄ちゃんにとっても気兼ねなく遊べる場所だった。昨年9月で助成金が終わり寄付金で継続してきたが、今後は大船渡市盛町のサン・リア内のすくすくルームで子育て支援を続ける。

伊藤理事長は「親族が亡くなり孤独に子育てする親が多かったが、子どもは地域の宝だ。お互いさまが当然だった昔のような環境になっしてほしい」と願う。

また、約2年半前にスタッフに加わった陸前高田市横田町のベビーマッサージ講師板林恵さん（37）は、母親2人とともに親子が対象のイベントを2月に開催した。「親がリラックスできれば子どもも元気に育つ。母親が休める場所をつくっていききたい」と話す。

22日にも、午前10時から同市高田町のコミュニティセンターホールで開催する。